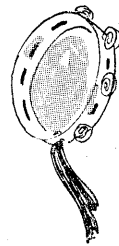


# 幼児のうたとあそび



小林つや江

## はしがき

幼児にとって「うたとあそび」がどんなにだいじかということ  
は、いまさら述べるまでもないことであります。

幼児の生活を考えてみましょう。

赤ちゃんは、お母さんのやさしい「よびかけ」や「子もりう  
た」にたのしい音楽を感じて育っていきます。

また鳥のなきごえ、ねこや犬のなき声、雨の音、風の音などを  
聞いて喜んでいきます。

ラジオやテレビまたレコードなどから、音楽が聞こえてくる  
と、自然に体を動かして喜んで聞いている姿は、どなたもご存じ  
のことでありましょう。

幼児は、体で音楽を聞き、感じています。それは、音楽のリズ

ムにのり、リズムを体で自由に表現するところに、こころよい喜  
びを感じるからであります。そこに、あかるい生き生きとした、  
楽しい豊かな生活が生まれ、美しい心情を養なうことができるか  
らであります。

わたしたちが、よりよい人間生活をいとなんでいくうえからみ  
て、その基礎づくりは、幼児期になされなければならないわけ  
あります。

「幼児のうたとあそび」を考えるまえに、

乳幼児期からどのように身体が発達していくかについて考えて  
みましょう。

昭和二十八年の、幼稚園のための指導書「音楽リズム」の中  
に発達段階がのっていますのでそれを見てみましょう。

乳幼児期においては、子どもは年ごとに、いちじるしい生理

的、心理的発達を示すものです。この発達的特質をとらえ、そのうえに、すべての指導は正しく行われるので、音楽リズムと関係のある生理的、心理的発達を述べています。

### 幼児の発達

#### 一歳児

##### I 一般的発達

イ、身体で表現をする。

●腕や足を盛んに動かす

片ことをいう

すやすやねむる

うれしそうな声を出す

やかましく騒いで声を出す

叫び声を出す

手をたたく

ロ、五感への刺激に対して反応する。

●笑いかけると動作で喜びを表わす

楽しいさやき声やうたなどきいた時

おとなしくなる

不愉快な音をきくと叫ぶ

音楽のやわらかい音に反応する

ハ、ひとりで器具を動かす。

●おもちゃ・棒・まわりにある品物など

にぎったり、どンドン打ったり、振ったり、落としたり

する

#### 二歳児

##### I 一般的発達

イ、身体（頭、胴、腕、足）で表現する。

ロ、リズムが変わると、同時に反応のようすも変わる。

●声量と声の強さが増す。簡単なことばや、簡単な調子を

ハミングする。歩いたり走ったりする

ハ、いろいろな物音や、人の声の変化や調子をまねる。

ニ、韻やリズムカルな文句に興味をもつようになる。

ホ、音響の効果に関心をよせる。

ヘ、楽器で音を出すために指を使うようになる。

#### 三歳児

##### I 一般的発達

イ、身体で表現をする。

●スキップしたり、走ったり、手をたたくときにリズムを

つける

● よちよちした足どりで歩いたり、走ったり、とんだりは  
ねたりして、リズムに合わせて体を動かすことができる  
ようになる

ロ、発声と聴覚とがつりあつて発達する。

ハ、ひとりであたりたり、うたで話をするのが急速に発達  
してくる。

● うたが活発にうたえるようになる

● 何かするとき、常にハミングするようになる

ニ、音の高さや強さ、曲の速さがわかる。

ホ、簡単な節を即興的に口ずさむ。

● 自由に節を口ずさむようになると、三から五つ位の音符  
できている節はたやすくうたえるようになる

## II 音楽に対する反応

イ、楽器に注意するようになる。

ロ、音楽に耳をかたむけ、節のくり返しを喜ぶ。

ハ、音を出すものを喜ぶ。

ニ、リズムのはっきりした音楽を喜ぶ。

ホ、旋律のはっきりした音楽を喜ぶ。

ヘ、強いびつくりするような音の出る楽器をこわがる。

ト、やわらかな音をきくとまねる。

## III 楽器に対する反応

イ、指の運動が発達、楽器をもてあそぶ。

ロ、リズムカルに動くおもちゃ、ゆれる木馬に興味をもつ。

ハ、楽器のリズムや音に対して、喜びをもちつづける。

ニ、リズム楽器で活発に伴奏する。

## IV 音楽と社会性

イ、すこしの間他の子どもと一緒に遊べる。

ロ、他人と一緒にいるときよりも、ひとりであるときのほう  
がよくうたう。

ハ、他人と一緒に楽器あそびをするよりひとりで観察してい  
るほうがおおい。

(都合により四歳―五歳は省略します)

以上のように述べています。

## 幼児のことは

赤ちゃんは〇歳の間はほとんど何もいえません。ことはが言え  
るのは一歳前後からのようです。

幼児(一歳から六歳)の話せることばの数は調査することがむ  
ずかしいので学者によって多少ちがうようですが、だいたい、

一歳……二語―三語

一歳半……一〇〇語

二歳……二〇〇語—三〇〇語

三歳……八〇〇語—一〇〇〇語

四歳……一五〇〇語—二〇〇〇語

五歳……二二〇〇語—二四〇〇語

これは話せる語数で、知っている語数は、もっと多く、小学校入学までには五〇〇〇語—六〇〇〇語といわれています。

この数字でもわかるように幼児のことは数は二歳から三歳、四歳、五歳ですばらしくふえているのにおどろかされます。

大脳生理学者によりますと、三歳は人間の脳の働きが動物と区別される時期だそうです。

「三つ子の魂百までも」とよくいわれますが、この時期に音楽では特に感覚教育をする最もよい時期といわれています。感覚というのはつぎの

- 一、音の高低      メロディー（旋律の感覚）
- 二、音の強弱      リズム
- 三、音の長短      リズム
- 四、音の速度      リズム
- 五、音の音色      ハーモニー（和音の感覚）

であります。

これらの感覚はそれぞれのしいあそびの中で自然に身につけるようにしていきます。

幼稚園の創設者であるフレーベルは、

「人間が生まれてから、ものをいうまでの生長は、小学生がニュートンのような大学者にまで生長するより、はるかに大きい」といっています。

### 幼児の音域

赤ちゃんが生声をあげるのはAの音で（一点イ音—四四〇C）（楽譜1）あるといわれています。この音で一年間は、笑ったり、泣いたり、しゃべったりしています。

パパ、プープ、ママなど同じ高さで話しています。

満一歳から二歳になりますと音は下の方へひろがっていきます。ママ、パパ、プープなどは、（楽譜2）に見る通り「さいたさいた」や「ぼっぼっぼ」は（楽譜3）に見る通りになり、かいいいふしがうたえるようになります。

音域の調査はわが国でもしていますが、ここに外国で幼児の音域をしらべたのがありますのでご参考までにあげておきます。

（楽譜4）

生まれてから満一年までは…一度

Pavsn 調

一歳〜二歳……………三歳

三歳〜五歳……………四歳 (幼稚園・保育園)

六歳……………五歳

七歳……………七歳 (上に音域は広がる)

わが国の文部省からだされている「幼稚園のための指導書」

(音楽リズム)の中に、幼稚園の園児の音域は(三歳〜六歳)六

度になっています。(楽譜5)

これによってみますと、わが国の子どもと外国の子どもとくら

べてみてほしいと同じと考えてよいでしょう。

### 幼児のうたの特徴

5. 幼児の無理のないうたにはどんなのがあるかしらべてみましょう。

素材は、日常生活を主題にしたもの

● よびかけのうた

● 年中行事をうたったもの

● あそびのうた など

I よびかけのうた

これは、おかあさん・おとうさん・おうちのひと・犬・ねこ・ニワトリなど、なんでも自分のお友だちのように考えて

いる幼児にとっては、よびかけは自然であります。

これを題材にしたものには

おかあさん（おかあさん……）

おとうさん（おとうさんげんきだな……）

ぶうぶうじどうしゃ（ぶうぶうじどうしゃ……）

ぶたちちゃん（ぶうぶうぶたちちゃん……）

ちようちよう（ちようちよう、ちようちよう……）

うさぎとかめ（もしもしかめよ……）

かたつむり（でんでん虫……）

などたくさんあります。

## II 年中行事のうち

お正月（もういくつねると……）

節分（おにはそと、ふくはうち……）

ひなまつり（あかりをつけましょ……）

（だいらさまやら……）

子どもの日（やねよりのたかい……）

たなばた祭（ささのはさらさら……）

七五三（おかあさん……）

クリスマス（ジングルベル……）

などの年中行事は、うたうたすることによっていっそう行事が意義ふ

かくたのしくなるものであります。

うたをうたいながらみんなで仲よくあそびましょ。

## III あそびのうち

子どものあそびは、子どもの生活であります。うたいなが

らあそぶといっそうたのしくなります。

かおあそび ゆびあそび

手合わせあそび まりつきあそび

なわとびあそび えかきうた

すなあそび ブランコ

すべりだい などたくさんあります。

## わらべうた

幼児のうちには、かならず「あそび」があります。うたいなが

ら手をうごかしたり、足をうごかしています。また、そのリズム

にあわせていつまでもたのしくあそんでいます。

幼児の発達段階にあつて、うたいやすい音域で、むりのない音

程でたのしいリズムをもつ歌曲ならいつまでもうたいつづけてい

かれます。

音域のせまいうたといえば、お話をしながらうたえるような

「わらべうた」などはもともと自然に音楽生活に導いていかれる

ものでしょう。

わらべうたは、音域はせまく、歌詞は短かくてすぐだれにでもうたえ、あそべるものであります。

つぎに音域のせまいものからあげてみましょう。

●二度のうた

かいぐりかいぐり いちばんぼし

たごさん たごさん おせんべいやけた

かえるがなから

●三度のうた

ゆうやけこやけ あばよしばよ

なべなべそっこぬけ ほーたるこい

おさるのこしかけ

●四度のうた

たけのこ一本おくれ かりかりわたれ

げんこつやまの おおさむこさむ

あがり目さがり目

●五度のうた

かごめかごめ

あんたがたごさ おじょうさま

ずいずいすっころばし だるまさん

てるてるぼうず いもむしごころ

ひらいたひらいた

以上のわらべうたをみますと、二度三度の音域より四度五度の音域をもつものが数多くあります。わらべうた以外のものでせまい音域をもつ歌曲は

●五度のうた

ちょうちょう ぶんぶんぶん ぶたちちゃん

●六度のうた

むすんでひらいて チューリップ

ふうふうじどうしゃ 赤い鳥小鳥

などたくさんあります。

幼児の「うたあそび」は発達段階に応じて、歌曲をえらび、むりのない声で（お話の声をもとにして）、うたわせたいと思いません。

「うたあそび」は何回うたつてもいつも楽しく、今日もあすもと希望をもつてうたい、あそびつつげられるようにしたいものだと思います。